

遠野中学校区の取組の総括（概要版）

遠野中学校区研究員部会

1 遠野中学校区の課題

（1）児童生徒の実態

- ・児童生徒が授業の流れを理解し、課題意識をもって授業に臨み、解決していくという授業の流れやゴールの姿を示す指導を小・中で共有できていることから、小中9年間を貫く授業スタイルが定着してきている。実践の積み重ねの成果であり、児童生徒が安心して授業に臨むことができている。
- ・課題意識を持続しながら学ぼうとする姿がたくさん見られるようになった一方で、「何を抛り所に」「どうやって」「どのようにして」学びを深めていけば良いのか等、学び方に見通しを持って、主体的・対話的に学びに向かう姿勢が十分に身につけていない。

（2）授業者の実態

- ・課題設定までに時間をかけずに授業の導入をスムーズに行う指導が定着し、これまで中学校区で取り組んできた授業改善の視点1「課題意識の持続」において成果が見られる授業が多くなった。
- ・身に付けさせたい「資質・能力」を明確にして授業に臨んでも、課題と学習活動がうまくつながらず、児童生徒が主体的に学びを深めていくための学習活動が保障されていなかったり、時間内にふり返りまで終えることができずに授業を終えてしまったりする等、達成状況の把握に至るまでの指導に依然として課題がある。

2 今年度学力向上取組の方向性

（1）授業改善の2つの視点

視点1 課題意識の持続

「学ぶべき課題が明確で、学習意欲が持続する授業」

視点2 達成状況の把握

「授業者が『目指す児童・生徒の姿』を、明確にもち、評価の場面と方法が適切な授業」

（2）今年度の重点取組

①2つの視点に関わって

【視点1】・児童生徒の主体的な学び、学習活動保障する（課題解決のための既習事項と関連づけた見通しのもと）。

- ・授業内容、学習活動の明確化による単位時間内の時間配分の工夫をする。

【視点2】◎今年度は視点2を特に重点的に取り組む。

- ・達成状況把握のための方法を吟味する。
- ・評価の場面と方法を吟味する。
- ・振り返りの在り方、単位時間内での振り返りを吟味する（小中の連携を活かす）。

②中学校区の共通の取組

- ・小・中学校相互の授業交流会
- ・年度当初の師範授業、学習会の実施
- ・授業ふり返り週間や家庭学習強化週間の実施
- ・遠中スタンダードによる小学校6年生の生活、学習スタイルの実施

3 具体的実践（授業交流会・学校公開研究会・校内研究会等について）

（1）授業の概要

- ① 令和元年5月30日（木） 遠野市立遠野中学校
- | | | | | |
|----|----|----|------------------------|---------------|
| ア) | 2年 | 数学 | 「式の計算」 | 授業者：教諭・石井 吉浩 |
| イ) | 1年 | 理科 | 「身のまわりの物質」 | 授業者：教諭・熊谷 善人 |
| ウ) | 1年 | 英語 | 「Program3 ウッド先生がやってきた」 | 授業者：教諭・浅沼 美紀子 |
| エ) | 1年 | 美術 | 「見て描く楽しみ ～○○な靴を描く～」 | 授業者：教諭・平山 朱子 |
- ② 令和元年10月31日（木） 遠野市立綾織小学校
- | | | | | |
|----|----|----|---------------|--------------|
| ア) | 1年 | 算数 | 「どちらが広い」 | 授業者：教諭・盛合 ゆか |
| イ) | 3年 | 理科 | 「風やゴムで動かそう」 | 授業者：教諭・佐藤 由之 |
| ウ) | 5年 | 体育 | 「器械運動～跳び箱運動～」 | 授業者：教諭・畠山 和也 |

（2）実践を通じて明らかになったこと

【視点1】

- ・単元を貫くルーブリック（評価基準）を活用することによって、1単位時間、単元を貫く課題意識の持続が可能になることが確認できた。
- ・学習課題を一人ひとりが自分の振り返り（学習シート）を反映させ、設定していくことで、より主体的に活動に取り組む姿が見られた。学習シートに、学習の見通し（技のストロボ図）と前時までの自分の活動の振り返りがあるため、現時点での自分の達成状況と課題を把握することをより具体的に把握することが可能となり、具体的な課題を自ら設定することができた。
- ・技の習得状況に合わせて、自らが練習場所を選択し、取り組むことができるように場を豊富に設定していくことで、自分の達成状況を把握しながら、自分の活動にとって必要な場を主体的に考え活動に臨む姿が見られた。
- ・学習シートの技のポイントと技の習得状況を関連させ、自分にとって必要な練習はなにか意欲的に考えることができた。

【視点2】

- ・発表方法として、マッピングを使って発表させるで、即興で発表する能力を見取ることができた。
- ・振り返りシートを活用することで、単元のゴールに向けて1単位時間ごとに振り返り、単元のゴールに向かうことが期待できた。
- ・タブレット PC を用いて学習活動を動画に納めることで、自分の活動を客観的に捉え、技のポイントと照らし合わせて自分の技の習得状況を把握することができた。
- ・友達のアドバイスを聞きながら、自分の動画を確認することで、アドバイスの有用性を実感し、しっかりアドバイスを聞いて活動に反映させていこうとする意識につながっていた。また、アドバイスする側としても、その有用性に気づき、的確にアドバイスしようと技のポイントと友達の活動を比較して伝えようとする姿が見られた。
- ・振り返りと技の出来栄や学習態度等、自分の体育における状況が一目でわかるようプリントの構成を工夫し、次の時間の課題に使える情報として活用することができた。

4 諸調査結果等の結果考察（児童生徒及び授業者の変容）

- 県学調質問紙の抽出6項目について、昨年度と質問内容が異なるため、今年の結果について考察した。その結果、5項目は8割を超えていたことから、中学校区の2つの視点によって、授業の流れが一定であり、児童生徒は安心して学習活動に向かっている様子がうかがえる。項目4の「話し合う活動」については、8割以上の児童生徒が、授業の中で、友達と考えを交流したり、比べたり、深めたりする時間が大切だと意識している。これは、意図的に話し合う活動を設けてきた結果であ

る。項目2の「振り返る活動」については、8割以上の児童生徒が、学習内容や自分の成長について実感できている。視点2「達成状況の把握」を今年度重視しながら振り返る活動の実践を積み重ねてきたことが結果につながったと考える。一方、項目3の「あなたは、授業で分からなかったところなどや、理解していないところについて、自分で調べたり、先生や友だちに聞いたりして、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」については、8割を切っており、児童生徒の課題解決能力をさらに向上させる取組を行っていく必要があると考える。

○教員のアンケートは、市教委作成の前年度のものと同じものを使用した。項目1の「導入時に興味・関心を持たせる手立てを組んでいるか。」については、授業の中で興味・関心を持たせる手立てを組む先生が多くなったという肯定的回答が増えている。これは、導入から課題作り、解決の見通しの場面で、課題意識を持続させるための手立てを工夫している教員が増えていると考えられる。項目3の「児童生徒の考えを発表させる機会を設けているか。」や項目4の「ペアやグループで話し合う機会を設けているか。」についても、肯定的回答が増えている。これは、児童生徒に意欲的に思考させ、判断させ、表現させながら、主体的に学習させるための手立ての工夫や課題に主体的に取り組ませ、自力解決した結果を筋道立てて話しながら、友達と比べたり、深めたりする機会を多く設定しようとする意識の表れだと考える。しかし、項目6の「振り返る活動を行っているか。」については、前年度より下回っている。これは、前年度同様、振り返りの時間が取れなかったという意味に捉えることができる。これまでの授業改善の成果を生かしながら、導入・課題把握・見通し・自力解決のスリム化を進めると同時に、振り返りの時間に、書く活動だけでなく、発表する活動を行う等短時間で工夫も必要と考える。

5 成果と課題

(1) 成果

- ・児童生徒が自ら課題を設定できるように発問や場の工夫をすることで、課題をより主体的に捉えることができた。
- ・学習の流れやゴールの姿を示し、課題解決のための拠り所を提示することで課題意識を持続させることができ、児童生徒が安心して授業に臨むことができた。
- ・1単位時間の展開に見通しを持って進める意識が定着している。そうすることで、振り返りまで時間内に行うことができるようになってきた。
- ・小中がお互いに授業交流を重ねることで積極的な協議が行われ、それぞれの特性を生かした質の高い授業が行われるようになった。

(2) 課題

- ・達成状況の把握を次時に生かす手立てやフィードバックの仕方を工夫していきたい。
- ・ねらいを明確にした振り返りをし、自己評価や相互評価のレベルアップを図りたい。
- ・ICT機器をいつ、何のために、どう生かすか等有効的な活用の仕方について工夫していきたい。

6 次年度の取組の方向性

- ・本学区の取組は、「主体的・対話的で深い学び」を通して児童生徒の確かな学力を育むことや「いわての授業づくり3つの視点（「学習の見通し」「学習課題を解決するための学習活動」「学習の振り返り）」と結びつく内容であり、これから求められる授業づくりにつながるものである。これまでの取組を継続しつつ、さらなる授業改善に取り組んでいきたい。
- ・視点1については、スリム化等の課題はあるが、ある程度できている。視点2を重視した取組と実践を継続していく。その上で、前時の「達成状況の把握」が、本時の「課題意識の持続」につながり、本時の「達成状況の把握」が、次時の「課題意識の持続」につながるような単元を通した「学びの連続性」を見据えた授業改善に取り組んでいきたい。